福知山市人権保育基本方針

令和6（2024）年3月

福知山市福祉保健部子ども政策室

目 次

1. はじめに	1
---------	---

福知山市人権保育基本方針の体系	3
-----------------	---

2. 人権保育の基本理念	4
--------------	---

3. 人権保育の基本的視点	6
---------------	---

4. 人権保育を推進していくための実践方策	11
-----------------------	----

【資料編 (子どもの人権に関する動向)】

1. 国際的な動き	13
-----------	----

2. 国内の動き	14
----------	----

3. 福知山市の子育て支援・保育の取組み	15
----------------------	----

1. はじめに

人権保育とは、すべての子どもたちの基本的人権を尊重し、生きる喜びや豊かな人間性を育みながら、子どもたちの人権意識や人権感覚を育む保育です。

近年の子どもたちを取り巻く状況は、社会構造の複雑化、価値観の多様化の中で、様々な人権侵害が依然、根深く存在しており、深刻化するいじめや児童虐待、子どもの格差・貧困問題、子育ての孤立化などにより、子どもたちが劣悪な状況に置かれ、悪質な差別事件が後を絶ちません。これらを解消するため、新しい時代にふさわしい人権感覚を磨いていくことが重要な課題となっています。

平成2（1990）年に人権尊重の精神を涵養する趣旨としての「人権を大切に
する心を育てる保育」が保育所保育指針の目標に掲げられました。その後も保
育所における子どもの人権尊重に関する様々な施策が策定され、平成29

（2017）年の全部改正により、新たに「育みたい資質・能力」「幼児期の終わ
りまでに育ってほしい姿」等が規定されました。

これらを受けて、本市においては、平成27（2015）年に「福知山市子ども・
子育て支援事業計画」を策定し、子どもや子育て支援に関する取組みを進める
とともに、子どもに関わるあらゆる差別の解消に向けて取り組んできました。

乳幼児期は、生涯にわたる人間形成の基礎を培う極めて大切な時期であるた
め、この時期に一人ひとりの人格や個性が尊重され、豊かな人間性を育むこと
は、その後の子どもの成長にとって非常に重要であります。

子どもが一日の生活時間の大半を過ごす保育所・こども園・幼稚園・療育施
設等（以下、「保育施設等」という）において、人権尊重の意識と行動の基礎
を培う人権保育のなお一層の充実が求められています。

この基本方針は、保育施設等、教育機関、地域などにおいて、保育に関わる

すべての人が「子どもの人権を尊重し、子ども自身の人権意識を育てる保育」を推進するため、全国人権保育連絡会が示す、人権保育のさらなる実践の推進と深化をはかるための「人権保育の創造に向けての8つの視点^{※1}」の理念を取り入れ、本市における人権保育の基本的な考え方を示すものです。

さらに、本市において保育とは、「養護と教育が一体のもの^{※2}」であると捉えており、この基本方針についてもこの理解に基づき策定しています。

※1 人権保育の創造に向けての8つの視点

1. 差別の現実（子どもの姿）から深く学ぶ
2. 「子どもの権利条約」の理念を具体化する
3. 「人権感覚の育成」を保育実践の基盤に据える
4. 「保育の質」の向上をはかる
5. 自律と自尊感情を育てる
6. 健康でしなやかなからだを育てる
7. 遊びと表現を重視する
8. 乳幼児教育と小学校教育との接続・連携を強化する

※2 保育は「養護と教育が一体のもの」（全国保育士会資料より）

「養護」と「教育」が一体のものであるとは、子どもが落ち着いて、安心・安全に過ごせる場所や環境づくりに配慮しながらも（養護的側面）、子どもの主体的な経験を通して、感情の動き、人との関係、道具の使い方、達成感、自分らしさの育ち、態度の育ち、ことばの覚え、運動能力の獲得などを育むこと（教育的側面）を支える表裏一体のかかわりがあるということ。

福知山市人権保育基本方針の体系

基本理念

(1) すべての子どもの命がかけがえのないものとして尊重し、一人ひとりの存在を尊く思い、自らを大切にすることを育るとともに、お互いの人権を尊重し合うことができる子どもを育てます

【基本的視点】

子どもの人権感覚の育成

- ① 自尊感情を育てる
- ② 思いやりの心を育て、豊かな人間性を育む
- ③ 自分で考え行動する力、自律を培う
- ④ 人との関わりの中で、違いを認め合い尊重する心を育てる

基本理念

(2) 遊びによって「生きる力」を蓄えていくために、子どもが思う存分安心して遊び込める環境の中で、自尊感情と自律を育て、健康でしなやかなからだを育むことを発達に応じて身につけられる保育を推進します

【基本的視点】

子どもの育ちの保障

- ① 一人ひとりを大切にする
- ② 生命の尊さ、大切さを伝える
- ③ 子どもの意欲と主体性を育てる保育環境を整える
- ④ 子どもの遊びと表現を重視する

基本理念

(3) 子どもは社会の大切な一員であり、子どもに関わるすべての大人がつつまりながら、子どもを権利の主体として子どもの権利を保障する地域をつくります

【基本的視点】

社会全体で子どもを育む

- ① 子育て家庭への寄り添い支援に努める
- ② 乳幼児教育と小学校教育との接続・連携を強化する
- ③ 地域、関係機関と連携する

《人権保育を推進していくための実践方策》

- (1) 人権感覚・人権意識を向上する
- (2) 人権保育と人権教育との接続・連携を強化する
- (3) 保育施設等、家庭、地域が密接に連携する

2. 人権保育の基本理念

令和5（2023）年4月1日に施行した福知山市人権尊重推進条例においては、「人権尊重のまちづくりの推進は、すべての人が基本的人権を生まれながらにして持っており、かけがえのない個人として尊重され、差別をはじめとする人権侵害は決して許されるものではないとの認識のもと行うものとする。」ことを基本理念に掲げています。

この基本理念を保育の分野で具現化するため、命の大切さはもちろん自分を大切にできる心、自分自身を好きになる、そして相手の立場に立って物事を考え、違いを認め尊重し合うというような、人権を大切にできる心を育てる保育を乳幼児期から推進するための以下の3点をこの基本方針の基本理念とします。

（1）すべての子どもの命がかけがえのないものとして尊重し、一人ひとりの存在を尊く思い、自らを大切にできる心を育てるとともに、お互いの人権を尊重し合うことができる子どもを育てます。

【解説】

子どもは、大人によって生命を守られ、愛され、信頼されることによって、自分も大人を愛し、信頼していくようになります。「大切にされている」、「認められている」、「成長を喜んでもらっている」といったことを実感することにより、「自分自身を肯定的に捉え、価値ある存在として認め、大切に思う気持ち（自己肯定感）」が育っていきます。

このことが源となり、主体性が芽生え、意欲が湧き、自分らしさを発揮していくことになり、人権の主体としての基礎を身につけていくことにつながります。

(2) 遊びによって「生きる力」を蓄えていくために、子どもが思う存分安心して遊び込める環境の中で、自尊感情と自律を育て、健康でしなやかなからだを育むことを発達に応じて身につけられる保育を推進します。

【解説】

生活や遊びの中での交流や関わりを重ねながら人には様々な違いがあることを知り、自分を大切に思うように人を大切に思う人権感覚の基礎を培っていきます。

また、自然とのふれあいを通して、生命の尊さを感じとり、生物が多様性を保ちながら共生していることにも気づくようになります。

また、生活や遊びに見られる子どもの姿を客観的に理解し、子ども同士の関係を変えていく仲間づくりを進める保育の展開・充実が、人権問題を子ども自身が解決していく力を身につけることにつながります。

(3) 子どもは社会の大切な一員であり、子どもに関わるすべての大人がつながりながら、子どもを権利の主体として子どもの権利を保障する地域をつくりまします。

【解説】

人間形成の基礎を培う極めて重要な乳幼児期に「差別を見抜き、差別を許さない・跳ね返す力」の資質を育むことが子どもの成長にとって重要なものとなります。

さらには、地域において様々な人たちと出会い、その思いを知り、それぞれに営みがあることを理解することで、社会の中でお互いの人権を尊重することが当然のこととして身につけていきます。

3. 人権保育の基本的視点

この基本理念を基に、保育に関わるすべての人に求められる基本的視点を定めます。

(1) 子どもの人権感覚の育成

子どもを一人の人間として尊重し、受け止め、認めるという対応を通して、自分や他の人を大切な存在であると思う心や、人に対する愛情と信頼感を育て、人権を大切にできる心と、人権の視点から行動する力の基礎を培います。一人ひとりの子どもの個性や特性を尊重し、集団の中の大切な一人として、様々な違いを受け入れる保育（インクルーシブ保育）の視点を大切にします。

① 自尊感情を育てる

子どもを権利の主体として尊重しているかを常に振り返り、子ども一人ひとりが周りの大人から愛され、認められているという実感が持てるように丁寧に関わり、人を信頼する気持ち、自分や他の人を大切に思う心を育てていきます。

② 思いやりの心を育て、豊かな人間性を育む

豊かな感性と愛情を持って子どもの思いに寄り添い、一人ひとりの言葉や行動を丁寧に受け止め関わっていくことにより、思いやりの心や豊かな人間性を育てていきます。

③ 自分で考え行動する力、自律を培う

活動を通して、子どもが物事をよく見て、よく聞いて、自ら判断し行動できる力が培われるように、子ども同士の関係をつなぎ、友達と一緒に取り組もうとする気持ちを育みながら援助し関わっていきます。

④人との関わりの中で、違いを認め合い尊重する心を育てる

様々な人との関わりが持てるように保育内容を工夫し、その中で生まれる色々な感情や欲求に対し、自分の思いを伝え人の考えを聴くことで、相手の立場になって考えることができる想像力や子ども自らが人と関わる力を培っていきます。

また、大人が子どもの生活や遊びの中に、自身の偏見や固定的な意識、言動、態度などを反映していないか振り返りながら、子どもが文化・国籍・障害など、様々な違いを認められるよう保育環境を整えます。

さらに、身近な人々との社会体験の中で、身の周りの人々が違いを認め支え合って生活していることを実感できるようにし、互いの違いを尊重する心を育んでいきます。

(2) 子どもの育ちの保障

一人ひとりの子どもを、基本的人権を有するかけがえのない存在として認識し、すべての子どもが生まれ育つ環境に左右されることなく、自らの可能性を伸ばし、自分らしく生きることができるよう、子どもの最善の利益を考慮するとともに、子どもの生活そのものである遊ぶ姿から、一人ひとりの子どもの状況を把握し、基本的な生活習慣や人と関わる力、豊かな感性など、生涯にわたる生きる力の基礎を育む保育を保障します。

①一人ひとりを大切にする

子どものありのままの姿に寄り添い、一人ひとりの気持ちを十分に受け止め、丁寧に関わりながら子どもが安心感を持てるようにします。

発達の援助の際には、一人ひとりの心身の発達の個人差、生育歴、家庭環境などに十分留意して、生命の保持や情緒の安定に努め、生活リズムを整え、健

康な生活を送るための基盤をつくっていきます。

②生命の尊さ、大切さを伝える

友達と一緒に身近な動植物、自然と関わる中で、植物の生長や命の誕生などに気づき、命を育むことへの責任や喜び、友達と共感し感動する気持ちを味わえるようにします。その中で、生物の循環や命の繋がりを知らせ、命を頂いていることへの感謝の気持ちや命を大切にすることを育んでいきます。

③子どもの意欲と主体性を育てる保育環境を整える

子ども自身が意欲的に、主体性をもって育つ人的環境、物的環境など保育環境を計画的に整え、自然や社会の事象などを適宜に捉えて、子どもの発達の特長、発達過程に応じた援助を行います。

④子どもの遊びと表現を重視する

遊びは乳幼児期の子どもたちにとって生活そのものであり、遊びによって「生きる力」を蓄えていくものです。子どもたちの興味・関心を捉えて、それを子どもが自分たちで考えたり、選択したり、仲間と協力して表現できていくような環境を準備することが求められており、それが人権保育そのものといえることを伝えています。生活や遊びの中で発達に応じた経験を積み重ねていくことができるように、遊びを文化として捉え、環境との相互作用による、様々な体験や経験を通じて感覚（五感）の働きを豊かにし、感性や好奇心、探求心や思考力、創造性や表現する力などを培い、主体的に遊びに関わる力を育んでいきます。

(3) 社会全体で子どもを育む

子どもは社会の大切な一員であるという観点に基づき、子育てへの意欲や自信、喜びを持って子育てができるよう、地域の子育て家庭の思いに寄り添いながら、子どもの最善の利益を共に考え、地域の子育て家庭への支援に積極的に取り組みます。さらに地域や学校教育とも連携強化を図り、社会全体で子どもの人権を大切にし、子どもの権利を保障する社会をめざします。

①子育て家庭への寄り添い支援に努める

日頃から保護者が話しやすい雰囲気をつくり、保育施設等での子どもの姿や保育のねらい、子どもの気持ちや行動の理解の仕方などを具体的に伝えます。

また、保護者の思いや状況を受け止めて子育てについての相互理解を深め、子どもと保護者の安定した関係に配慮した支援を行い、信頼関係を築いていきます。保護者同士が支え合い、安心して子育てができる関係が築けるように、子育てに対する思いやりや楽しさ、悩みなどを十分共有できる場や環境を日常保育や行事の中で工夫していきます。

②乳幼児教育と小学校教育との接続・連携を強化する

保育施設等をはじめ、乳幼児教育に携わる関係機関が小学校など教育施設との接続が連続性を持って行われるように、乳幼児教育と小学校教育に関係する職員や地域が相互に意見交流を重ね、共通認識・共通理解を図っていきます。

③地域、関係機関と連携する

子育て支援に関する情報を地域に発信するなど、未就園児の保護者が孤立することがないように、地域の関係機関と情報を共有しながら、ともに地域の子育て支援に取り組んでいきます。

ネットワーク機能を活用し地域における子どもの状況の把握に努め、地域や関係機関と連携・協力し、支援が必要な家庭に対する具体的な援助の方法を考

えていきます。

また、家庭において不適切な養育が見受けられた場合などは、関係機関と速やかに連携して適切に対応していきます。

4. 人権保育を推進していくための実践方策

人権保育を推進・充実するため、すべての保育施設等が組織的・計画的に取り組を進めるとともに、豊かな人間性と人権感覚が身につくよう、研修の充実や自己研鑽に努めます。さらに地域、学校、関係団体と積極的に連携します。

(1) 人権感覚・人権意識を向上する

保育施設等の課題を明確にし、一人ひとりが共通認識を持って、その解決に向けて意欲的に意見交換をします。その中で、様々な人権問題（部落差別をはじめ女性差別や障害者差別、外国人に対する差別など）に関する正しい理解と認識を深め、一人ひとりが人権感覚・人権意識に根ざした行動を身につけられるようにします。

また、人権保育の研修の場において、他の保育施設等の職員との情報交換・情報共有を図り、すべての保育施設等の取組みを向上させていきます。

(2) 人権保育と人権教育との接続・連携を強化する

人権保育と人権教育が連続性を持って行われるように、職員と小学校の教職員、また子どもたちが相互に交流できる関係を構築します。特に、職員の交流の中で、尊重すべき一人ひとりの子どもの個性や特性について確実に接続・連携し、子どもの生活の場が変わったとしても安心できる環境を整えるとともに、めざす子ども像についても共通認識・共通理解を図っていきます。

(3) 保育施設等、家庭、地域が密接に連携する

保育のねらいは、子どもが遊びの中で「表現力」や「想像力」を養うことにあります。集団の中で一律に活動することの大切さだけでなく、個々が自発的に取り組むことの大切さにも目を向け、その活動から得られることについて家

庭や地域に情報発信していきます。

また、家庭や地域の思い、状況、情報などの相互理解に努め、取組みを共有します。

さらに、家庭や地域の協力を得て、地域の自然、人材、行事、施設等の資源を積極的に活用し、豊かな生活体験や保育内容の充実を図り、保育施設等・家庭・地域で子どもたちを24時間見守ることができる関係を構築するよう努めていきます。

【資料編】

子どもの人権に関する動向

1. 国際的な動き

昭和34（1959）年、国際連合総会における「児童の権利に関する宣言」の採択により、子どもが単なる保護の対象としてのみでなく、権利の主体として明確に位置付けられ、平成元（1989）年には、子どもの人権を地球規模で守っていくための「児童の権利に関する条約」の採択により、子どもを権利の主体として尊重し、子どもに関するあらゆる差別の廃止や最善の利益の保護、生命・生存・発達の権利、意見表明権などの理念が掲げられ、社会生活の中でこれらを保障し、生かしていくことが求められました。これに伴い、平成6（1994）年には、平成7（1995）年から平成16（2004）年までの10年間を「人権教育のための国連10年」とすることが決議され、人権尊重の意識を高めるための具体的な目標を定めた「人権教育のための国連10年行動計画」が採択され、各国において人権を普遍的な文化として育てていくことを目標とし、人権に関する国内行動計画の策定など様々な取組みが進められてきました。

さらに、平成18（2006）年には、「障害者の権利に関する条約（障害者権利条約）」のほか「人権教育のための国連10年」終了後も引き続き人権教育を積極的に推進することを目的とした「人権教育のための世界計画」が採択され、以後、「初等中等教育」、「高等教育における人権教育及びあらゆるレベルの教員、公務員の人権教育」などのテーマごとの人権教育に関する取組みが引き続き進められています。

2. 国内の動き

昭和22（1947）年、児童福祉法が制定され、「すべて国民は、児童が心身ともに健やかに生まれ、かつ、育成されるように努めなければならない」という子どもの生活保障と愛護に関する理念が掲げられました。

昭和26（1951）年には、子どもの人権を考える際に基本となる児童憲章が制定され、平成6（1994）年には子どもの権利条約を批准し、条約の理念の実現に向けた取組みを進めることとしました。

一方、昭和40（1965）年、国の同和対策審議会の答申が示され、国民的課題である同和問題の解決に向けた取組みが総合的に推進される中で、その一環として人権尊重の精神に貫かれた人間の育成をめざす保育が行われてきました。

そして、昭和56（1981）年には、同和保育の意義や基本方針を明らかにした

「同和保育について」が国から通知されるとともに、平成2（1990）年には保育所保育指針が改訂され、人権を大切にすることを育てることが保育の目標として掲げられ、平成9（1997）年4月には、「『人権を大切にすることを育てる』保育について」が国から通知され、保育所保育指針に掲げる目標の実現に向けた取組みの一層の推進が求められました。

同年7月に策定された「人権教育のための国連10年」に関する国内行動計画や平成12（2000）年に制定された「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律」に基づいて、平成14（2002）年に策定された「人権教育・啓発に関する基本計画」においても、保育所保育指針にうたわれている人権を大切にすることを育てるため、子どもの発育や家庭、地域の実情に応じた適切な保育の実施が明確に位置付けられたところです。

平成12（2000）年には、保育所保育指針に「乳幼児の最善の利益を考慮すること」が追加され、重大な社会問題となっている児童虐待の防止等に関する施

策の推進を図るための「児童虐待の防止等に関する法律」の制定もあり、子どもの人権尊重の潮流はますます大きなものとなりました。

しかし、平成28（2016）年以後、児童虐待による相次ぐ死亡事件等が後を絶たず、国は、平成30（2018）年に保育所保育指針を改正し、保育所保育に関する基本原則に「保育所の社会的責任」として子どもの人権を守るための遵守事項を追加するとともに、令和元（2019）年6月に「児童虐待防止策の強化を図るための児童福祉法等の一部を改正する法律」を制定するなど関係法令を整備し、児童虐待防止策に係る取組みの強化を図りました。

また、子どもの貧困に関しては、「子どもの将来がその生まれ育った環境に左右されることのない社会を実現すること」を基本理念とした「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が平成26（2014）年1月に施行され、平成27

（2015）年9月の国連サミットにおいて採択された持続可能な開発目標（SDGs）のゴール1の中にも「子どもの貧困対策」が位置づけられており、様々な対策が行われています。

3. 福知山市の子育て支援・保育の取組み

福知山市では、平成27（2015）年に「福知山市子ども・子育て支援事業計画」を策定し、子育て支援等に関する取組みを進めてきました。令和2

（2020）年に改訂した「第2期福知山市子ども・子育て支援事業計画」においては、子どもが一人の人格として尊重され、安心して暮らせるまちづくりを推進するため、地域・社会・行政が一体となって連携・役割分担を行いながら子育て支援の施策の推進を図っています。

平成30（2018）年には「子育て総合相談窓口」を開設し、子育て支援制度に係る手続きをワンストップ対応するなど、切れ目のない子育て支援の推進に取

り組んでいます。

本市の人権保育を振り返ると、部落差別を見抜いて一人ひとりの子どもの人権の保障、解放の資質を培っていくための実践を取り組んできた同和保育がありますが、その取組みは、部落差別だけでなく身近にある様々な差別に気づいて打ち勝つ力を育てるということであったと思います。

その人権保育のルーツである同和保育を起点として、人権を大切に作る心を育てる保育の役割が極めて重要であり、すべての子どもに人権を尊重する価値観を育てるといったことを目的に人権保育に発展し、部落解放京都府人権・解放保育研究集会への参加など、継続的に取組みを進めてきたところです。

しかし、昨今の少子化、核家族化、いじめ問題などをはじめ、新型コロナウイルス感染症拡大等の影響による社会状況の大きな変化の中、様々な人権侵害が依然、根深く存在する中、セクシャルマイノリティ（LGBTQ）など新たな人権侵害への対応などに、社会全体での人権への取組みが求められているところです。

また、保育分野においては、子どもの生活体験、発達の過程において、一人ひとりの特性に配慮し、主体的な活動ができるよう各園において保育環境など工夫に努めています。

身近な動植物や自然に親しむなど、多様な体験活動をとおして命の大切さに気づいたり、友達をはじめ、様々な人と豊かな人間関係を築く中で、他者の存在に気づき相手を尊重する気持ちを育むなど、人権を尊重する保育や教育を大切にしています。これらの取組みにより、子ども達の中に命の大切さを実感し、お互いの個性を尊重する姿勢が育っています。

【保育分野における具体的な取組み】

(1) 人権保育の推進に向けた保育

福知山市の保育施設等においては、家庭や地域との連携を深めながら、子どもの生活実態や家庭の状況などの把握に努めるとともに、入所している子どもたちが健やかに成長できるよう保育の充実を図ってきました。

保育施設等における乳幼児期の生活経験の中では、人間として基本的に守らなければならないルールがあることや生命の尊さを感じられるよう働きかけるとともに、豊かな情操や思いやりを育み、お互いを大切にする人間形成の場となるよう努め、その後の成長において大きな役割を果たすことを目的として人権保育を推進しています。

(2) 子育て支援

福知山市では、核家族化が進む社会情勢の中、安心して子育てができるように、子育て支援センターによる相談事業やファミリー・サポートセンター事業などを実施するとともに、子どもの健やかな育ちの場として児童館や児童クラブを運営しています。

また、乳幼児健診、離乳教室等保護者を対象とした事業において保育を実施し、発達や成長に関する保護者の不安にも対応しています。保育所等では、病児保育、一時保育などを実施することで、保護者の負担の軽減を図り、子どもたちが生き生きと育つことができる最善の環境づくりに努めています。

(3) 加配保育

発達にアンバランスさのある子どもが、状態に合わせて集団の中で充実した生活を送ることができるように通常より保育士を多く配置し、保育を実施しています。

乳幼児健康診査時での4か月児、10か月児、1歳6か月児、3歳6か月児健診では、乳幼児の病気や障害の早期発見、心身の障害の進行防止を目的に医師、歯

科医師の診察や発達確認、個別相談を行い、育児に不安を抱える保護者を支援するきっかけとなるため重要な事業となっています。

また、「子ども発達支援相談ステーション くりのみ園」では、発達に心配のある子どもなどが親子で集団生活の経験をすることで日常生活における基本的動作を習得し、集団生活に適応できる力をつけられるよう援助をしたり、保育施設等へ訪問支援を実施したりしています。

(4) 多文化共生の保育

地域で暮らす外国人が増加している現状において、外国籍市民の人権が尊重され、市民の一員として相互の理解を深め、国籍や民族による偏見や差別を持たず、お互いの国や伝統を尊重し合い共生するために、外国籍市民への支援や市民の国際感覚を育成する取組みなどに努めています。「世界のだれもが輝けるまち福知山」の実現に向けて、外国籍の市民に対しても、出産や子育て、教育等に関する情報提供や支援を積極的に行い、子どもたちが将来活躍できるよう取り組んでいます。

また、福知山市外国語生活ガイドブックを6か国語で作成し、福知山市ホームページにもガイドブックの内容を掲載しており、生活や防災などの情報提供を広く行っています。

保育施設等の現場では、相手を思いやる姿勢を原点として、「自分が外国で子育てをする立場であったら」ということを保育士等は常に念頭に置き、相手に寄り添う保育の実践に努めるとともに、すべての子どもが多様な文化にふれあいながら共に生きていける人間形成を支援しています。

今後も引き続き、保健・医療・福祉・教育の各分野が連携を図り、地域の保育ニーズに応じた子育て支援、児童の健全育成支援及び相談支援の拡充をめざしていきます。